

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 http://catholicyamate.org/
第662号 2025年4月13日

2025年度横浜教区合同入信志願式
～神の招きに応えて～

4月19日(土)の復活徹夜祭に「入信の秘跡」を受ける求道者の方々のために、横浜教区合同入信志願式が「ことばの典礼」により、3月9日(日)〈四旬節第1主日〉午後3時から藤沢教会でラファエル梅村昌弘司教主司式により執り行われました。

出席した入信志願者は、山手教会の30人を含む約100人。聖堂は入信志願者、代父母、各小教区の信徒および聖職者で、ほぼ満席となりました。

式典は創世記の聖書朗読で始められ、司教の説教の後、司祭による「推薦」と司教から代父母・志願者に対して、入信の秘跡を受けるにふさわしい準備ができているかの「確認」があり、志願者は入信の秘跡を受けて教会に加わることを希望するしるしとして、入信志願書に署名しました。司教は志願者が神から選ばれたことを宣言し、志願者は使徒の時代から受け継がれてきた教会の信仰宣言(使徒信条)を唱えました。

司教は、説教の中で「入信の秘跡」とは、洗礼・堅信・聖体という切り離すことができない秘跡で、これにより神の民に加えられる。神さまの愛の特徴は無償の愛で、すべての人に無条件に与えられ、神さまからのご褒美ではない。神の愛とは恵・恩恵のことで、このこと忘れずに歩んでいきましょう」と話されました。

志願者が入信の秘跡を受けるその日まで、きょう

宣言した信仰を忠実に守るためには神の力が必要であり、そのために祝福された油が司教、教区本部事務局長の谷脇慎太郎師、副事務局長の牧山善彦師により、それぞれ志願者の方々に授けられました。

最後に司教による「派遣の祝福」があり、入信志願式が終了しました。



派遣の祝福



山手教会の皆さん

(編集部 土方芳人)

第43回横浜教区典礼研修会開催

横浜教区典礼研修会が2月11日（火・祝）に藤沢教会で開催され、聖堂は教区の各県からの司祭・修道者・信徒で埋め尽くされました。

テーマは「わたしはせつに願っていた—教皇フランシスコからの典礼的養成の呼びかけを受けて—」で、講師は昨年引き続きカトリック中央協議会・日本カトリック典礼委員会委員であり、上智大学・清泉女子大学の講師でもある宮越俊光氏でした。講演は、横浜教区典礼委員会委員長であり戸塚教会、中和田教会の小教区管理者でもある田丸篤師の挨拶に引き続き、午前10時から午後0時45分まで行われました。昼食後に全体としての意見交換を行い、田丸篤師主司式によるミサに参加して、午後3時半頃に散会しました。

宮越俊光氏の講演（要旨）



1 『使徒的書簡わたしはせつに願っていた』（2022年6月29日）について

・誰に対しての書簡か

司教、司祭、助祭、男女奉献生活者、そして、信徒の皆さんに対してです。

・表題『わたしはせつに願っていた』について

ルカ22章14-17節「時刻になったので、イエスは食事の席につかれたが、使徒たちも一緒だった。イエスは言われた。『苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。言うておくが、神の国で過越が成し遂げられるまで、わたしは決してこの過越の食事をとることはない。』」

ここで特徴的なことは①イエスご自身がこの食

事の席をととのえ、待っておられた②「あなたがたと食事をしたい」と願いに願っていたイエス自身の熱烈な願い—であったことです。

・書簡にこめられた願い・望み

書簡1：わたしはこの書簡において、典礼の問題について網羅的に扱うつもりはありません。キリスト教の祭儀の美と真理とを観想することにおいて助けになるような考察のために、いくつかの助言、あるいは手がかりをただ提供したいだけなのです。

書簡16：この書簡によって、わたしはキリスト教の祭儀と真理と力を再発見し、保護し、実践することへと全教会を招きたいと心から望んでいます。

書簡62：わたしはこの書簡が、キリスト教の祭儀がもつ真実の美しさに対する驚きを再び覚まし、本来あるべき典礼的養成の必要性を思い起こさせ、そして、過越の神秘の心理と洗礼を受けたすべての人が、それぞれの召命に従って、その真理に参加することに奉仕する祭儀の技法（注：典礼のささげ方）の重要性を認識する助けとなれど願っています。

これらの書簡からは、典礼の美しさ、祭儀がもつ力と真理、これらに対する驚きを「再発見」すること。また、典礼に関して新しいことを提供することではなく、60年前の第二バチカン公会議（1962～65年）による典礼改革の精神を「再発見」することが言われています。

2 典礼はキリストとの出会いの場

書簡7：死者のうちから復活された主が、エマオの弟子たちのため、そして、人々ではなく魚を捕る漁師に戻った弟子たちのためにパンを裂いたとき、そのパンを裂くという動作は彼らの目を開きました。この動作は十字架への恐怖によってもたらされた盲目から弟子たちを癒すとともに、彼らが復活した主に「出会い」、復活を信じることを可能にしたのです。

書簡11：典礼は、このような出会いの可能性をわたしたちに保証します。最後の晩餐をぼんやりと思いつくことは役に立たないでしょう。わたしたちに必要なのは、キリストの声を聞き、キリストのからだを食べ、血を飲むことができるように、この晩餐に出席することです。つまり、わたしたちはキリストご自身を必要としているのです。聖体において、ま

た、すべての秘跡において、わたしたちが主イエスに出会うことと、主の過越の神秘の力がわたしたちに及ぶということが、保証されているのです。

書簡24：神との出会いは、個人の内面で神を探求することの実りではなく、神から与えられる出来事なのです。わたしたちは、受肉という新しい現実を通して神と出会うことができます。受肉の現実は、最後の晩餐において、わたしたちによって食べられてしまいたいイエスが強く望まれたことによって、その頂点に達しました。わたしたちをこの美しい贈り物の魅力から遠ざけてしまうという不幸は、どのようにして起こるのでしょうか。

書簡33：聖霊降臨のときから祭儀は主と出会う特別な場(唯一の場ではありませんが)になりました。この出会いの恵みによってのみ、人間は真の人間性を備えた存在になるのだと、わたしたちは知っています。

・キリストとの出会いは「贈り物」

マタイ18章20節「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」

教会でキリストとの出会いを感じていますか。ミサの中でキリストとの出会いを感じていますか。キリストと出会うモード(ワクワク・ドキドキするような気分)になりましょう。

・典礼におけるキリストの現存(『典礼憲章』第7条)

「これほど偉大なわざをなしとげるため、キリストはつねにご自分の教会とともにおられ、特に典礼行為のうちにおられる。キリストはミサのいけにえのうちに現存しておられる。『かつて十字架上でご自身をおささげになった同じキリストが、今、司祭たちの奉仕職を通しておささげになる者として』奉仕者自身のうちに現存されるとともに、また何よりも聖体の両形態のもとに現存しておられるのである。キリストは諸秘跡のうちに、ご自分の力によって現存しておられる。すなわち、誰かが洗礼を授けるとき、キリストご自身が洗礼をお授けになるのである。キリストは、ご自身のことばのうちに現存しておられる。聖書が教会で読まれるとき、キリストご自身が語られるからである。最後に教会が嘆願し、賛美を歌うとき『二人または三人がわたしの名

によって集まるところには、わたしもその中にいるのである』(マタイ18章20節)と約束なさったキリストが現存しておられる。」

・ミサに現存する(現にいらっしゃる)キリストとの出会いの場

司式者と会衆による挨拶：「主は皆さんとともに」「またあなたとともに」この短い信仰宣言を開祭、福音朗読の前、奉献文の冒頭、閉祭で確認しています。

3 典礼とそこで祝われることへの「驚き」

書簡24：秘跡的なしるしの具体性の中に過越の神秘が現在化されているという事実への驚きが欠けているなら、あらゆる祭儀に流れ込む恵みの海へと至ることができなくなる危険を、わたしたちは本当に冒してしまうでしょう。……神との出会いは、個人の内面で神を探求することの実りではなく、神から与えられる出来事なのです。わたしたちは、受肉という新しい現実を通して神と出会うことができます。

・何に対して「驚き」を感じるのか。

典礼におけるキリストとの出会い。

過越の神秘を今日、この場で体験していること。

信仰生活の中で、典礼を通して、この「驚き」を感じているのでしょうか。

4 典礼的養成の必要性

書簡27：ですから根本的な問いかけはこれです。「わたしたちは、どうすれば典礼行為を十全なものとして実践する能力を取り戻すことができるのでしょうか」。これこそが、第二バチカン公会議の典礼改革の目標でした。この挑戦は非常に困難なものです。なぜなら、現代の人々は(すべての文化において同じ程度であるというわけではないにしろ)典礼行為の本質的な特性である象徴的(シンボリック)な行為に参加するための能力を失ってしまったからです。

・養成の2つの側面

- ① 典礼のための養成：具体的な準備、典礼についての学び。
- ② 典礼による養成：典礼そのものへの参加の体験を通して、典礼によって形づくられる。

典礼それ自体が養成の機会となる。…「典礼は教会の活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る源泉でもある。」(『典礼憲章』第10

条) 叙階を受けた奉仕者も信徒も、時間をかけた「生涯養成」として。

・シンボルへの理解を深めるための学び

典礼の多様なシンボルを用い、理解するための「感性」を育てること。

与えられた象徴的な動作(例:十字架のしるし)を繰り返す→動作がその人自身のものとなる→生涯を通して意味を増していく→養成される、形づくられる。

シンボルによって開かれる「神秘」を体験→驚き・喜び・感謝・賛美。

・典礼を正しく適切に祝うための「祭儀の法」

司式者のみならず典礼に参加するすべての人に求められる。できる限りふさわしく適切に、心を込めて祝うように。

① 祝うこと：典礼の規則を正しく理解し、ふさわしく、適切に、共同体の「祈り」として共に祝うこと。

② 技術・技法・美しさ (ars; art)：ことばと所作・姿勢が有機的に結ばれていることを意識し、それを通して式の意味を伝え、信者の参加を促すような“ars”を実践すること。

「祭儀の技法」が目指すこれらの側面を、典礼の前(適切な準備と学び)、典礼の中(実践)、典礼の後(実践の振り返り)に意識し、個人ではなく教会共同体としての賛美につなげていく→典礼的養成

5 むすび

書簡62：わたしたちは、この書簡がキリスト教の祭儀がもつ真実の美しさに対する驚きを再び呼び覚まし、本来あるべき典礼的養成の必要性を思い起こさせ、そして、過越の神秘の真理と、洗礼を受けたすべての人がそれぞれの召命に従って、その真理に参加することに奉仕する祭儀の技法の重要性を認識する助けとなればと願っています。

・わたしたちと出会うために待ち続けるキリスト

このキリストに出会うために何ができるでしょうか。それは、典礼についての学びと準備、典礼における行動的な参加です。

典礼的な沈黙…「典礼的な沈黙とは、祭儀の行為全体にいのちを吹き込む聖霊の現存と働きの象徴(シンボル)なのです。このため、沈黙は典礼の一連の

流れの中で節目を構成します。」(『わたしはせつに願っていた』書簡52参照)

・典礼(ミサ)を通してもたらされる変化

「ミサが終わると、キリストをあかしするという務めが始まります。キリスト者は週に一度のお勤めとしてミサに行き、後は忘れるのではありません。違います。キリスト者は主の受難と復活にあずかり、それからいっそうキリスト者らしく生きるためにミサに行きます。つまり、キリストをあかしするという務めが始まるのです。……ミサが終わったときには、いつも始まったときの自分よりも、より生き生きと、よりパワフルに、キリスト者としてあかししたいという熱い思いを強くしていなければなりません。」

[教皇フランシスコ『ミサについての連続講話』(2018年4月4日)、教皇フランシスコ『ミサ・洗礼・堅信—教皇講話集』93・94ページ]

※教皇フランシスコ著『使徒的書簡わたしはせつに願っていた』は、カトリック中央協議会発行で495円(税込)です。

(編集部 土方芳人)

教会学校卒業式



3月16日(日)、鈴木真神父様司式の「子どもとともに、ささげるミサ」の中で、教会学校の卒業式を行いました。当日は卒業生7人全員が出席し、多くの信徒の方々に祝福され、在校生に見送られながら巣立っていきました。

ミサ中の共同祈願では、卒業生の代表が「今まで無事に仲良く過ごせたこと、今日卒業できることを感謝します。これからも皆が愛と希望を持って生きて行けますよう、見守ってください」と、6年生全員で考えたお祈りを、神様におささげしました。

お説教では「はりねずみのおいしゃさん」という絵

本を映しながら神父様が朗読されました。はりねずみ先生の患者に寄り添い助ける様子、先生と一緒に過ごしたい一心で嘘をついていた白鳥を赦す姿は、神様の深いいつくしみを思い起こさせるものでした。

ミサ終了後は、神父様から一人ひとりに卒業証書と記念品の聖書が手渡され、卒業式は終了しました。子どもたちがどんなときにも神様に愛されていることを思い出し、希望を持って新しい環境に飛び込んでいくことを願ってやみません。皆さま、どうぞ、卒業生の将来のためにお祈りください。

卒業生は以下の方々です。(敬称略)

	今田蓮乃
	遠藤 奏
マリア ソフィア	萩原 夢依奈
イグナチア・ロヨラ	佐久間 美玖
マリア エリザベト	高田二叶
	中川果音
セシリア	宮代寧々

(撮影：教会学校 リーダー 村松高明)

文：同 工藤元子)

福祉支援金配布報告

今年度も多くの皆様のお祈りとご厚意によって、クリスマス献金なども加え、総額138万円を2025年度の支援金として、下記の団体にお届けすることとなりました。

「横浜マック、横浜ダルク、木曜パトロールの会、ラルシュカナの家、寿高齢者ふれあいホーム木楽な家、アルコールケアセンターたんぽぽ、神山復生病院、駿河療養所、女性の家サーラー、インダー、ヌジュミ、横浜教区難民移住異動者委員会、横浜教区ステラマリス、寿支援者交流会、横浜上野町教会フードドライブ、佐々木治夫神父様(ブラジル)支援」

今年度は、新たに「横浜教区難民移住移動者委員会」にも支援をさせていただくこととなりました。これらの団体では、支援を必要としている人々は多くても、資金的な面からも活動自体が厳しい状況に置かれている団体が多く見受けられます。この配

布金がそのような団体への一助となり、少しずつではありますが、さまざまな場面で活動している団体を支えていくことができると願っています。そして、これからも教会の皆様と支援団体の皆様をさまざまな場面で見ないでいく、そのお手伝いができると福祉委員会では願っています。具体的には「ミニ福祉バザー」などのさまざまな機会を通じて、教会内のさまざまな団体と協力して、このような団体やその活動を、教会の皆様を紹介する機会を続けていきたいと考えております。

これからも、支援を必要としている多くの方々に思いをはせながら、祈りと経済的支援と行動での支援を行っていきたいと思います。これからも皆様に、私たちのそばで困っておられる方々やその方々を支援している方々のことをお伝えできればと思います。今後も更なるご協力をお願いいたします。

(福祉委員会 委員長 大森秀樹)

グロリア会 活動を再開しました

コロナ禍で活動を休止していましたが、再開しました。再開第1回は2024年12月4日(水)、第2回は3月19日(水)、おなじみさんの他に新顔さんの参加で鈴木真神父様司式のミサと茶話会が行われました。

グロリア会は1988[昭和63]年に当時の主任司祭伊藤淑雄師の下で始まりました。高齢によりヨゼフ会やロザリオ会で活動が難しくなった方々のための集まりでしたが、今は高齢者と限定せず、さまざまな理由で主日のミサに参加することが難しい方にもご参加いただいております。グロリア会は司祭・信徒館の1階で開かれ、ミサから始まります。当日集まった方に朗読と共同祈願をお願いしています。遠慮深い方もいらっしゃいますが、皆様引き受けてくださいます。発足当時、高齢者のためにイスに座ったまま、または、その場で立ち上がってご聖体を拝領していた伝統は今も続いています。ミサ後はお茶をいただきながら神父様の霊的講話、分かち合い、情報交換です。お茶の用意、片づけも皆さんで緩やかに行う手作りの集まりです。会の運営・維持のために会費300円をいただいております。開催は不定期なので「今週のおしら

せ」でのご案内になりますが、ぜひ、ご参加ください。
(グロリア会 世話係 竹之内 弘美)

ロザリオ会便り

ロザリオ会では、司教様、神父様の叙階記念日には、お祝いと霊的花束としてのお祈りをささげています。教皇様が重篤な状態のときも、世界中の人々が回復への祈りをささげたことでしょう。そして、現在は退院されてお元気なお姿がメディアを通じて私たちのもとに届けられています。

2022年、コロナが世界中に広まった時、私の知人のアメリカに住んでいる叔母さまが感染しました。非常に重い症状で、ICUでエクモも施されました。昏睡状態の中で長い時を過ごしていました。私も毎日お祈りしました。医療スタッフ、その他の方々の尽力の甲斐あって、彼女は奇跡的に回復しました。そして、すべての人への感謝の思いを込めてカード作って贈りました。私のところにも届けられました。そして、なお、名前もわからずに必死に携わってくれた方々にも、できる限り知ってお礼の気持ちを届けたいと綴られていました。私のささやかなお祈りも、医療スタッフの献身的な働きと同じように受け止められていたことに、逆に私は感謝の思いを抱きました。そのカードは今ピアノの上に飾ってあります。カードの中の元気に微笑む姿は私に希望を与えてくれます。祈り働き、Ora et Labora というベネディクト会のモットーは、私たちロザリオ会の指針でもあります。マリアとマルタ、2人の行動が共存できるようなそんな会を常に目指しています。そして、暖かい陽光にあらゆるものが芽吹き花咲くこの季節、ご復活の喜びをみんなで分かち合いたいと願っています。

(ロザリオ会 広報 山本 紀志子)

2025年3月度教会委員会議事要約

日時：2025年3月2日(日) 午後1時～3時

場所：司祭・信徒館1階「松・竹」

議事内容（議事進行：小倉委員長）

1 主な審議確認検討事案 ※順不同

- (1) 墓地の募集について
 - 10区画の墓地について募集を行う。申込期間は4月22日(火)から6月1日(日)までとし、希望者に申込書を手渡して配布する。
 - 同一区画に複数の申し込みがあった場合は抽選とする予定。抽選は6月15日(日)。
 - 申し込みは原則として山手教会の信徒とする。
 - 最近墓地の管理費について未納となっている方が増えている。時間の経過とともに連絡が途絶えてしまう方も多く、利用者との関係を密にする努力を行う。
- (2) 聖年巡礼の申し込み状況について
 - 3月の予定は1件。4月以降を含めると5件の予定がある。また、7月と10月に申し込みがある見込み。
- (3) 聖堂説明グループについて
 - 巡礼で山手教会を訪れる方への聖堂の説明としてマニュアルを作成した。これを使い聖堂の説明をする奉仕グループを立ち上げたい。

【決定事項】

 - ・グループの立ち上げは承認。
 - ・マニュアルについては鈴木師に確認する。
- (4) 福島やさい畑について
 - 次回の福島やさい畑は、5月4日(日)としたい。

【決定事項】

 - ・承認する。
- (5) パイプオルガン設置30周年記念コンサートの日程について
 - オルガン製作者を招いてのオルガンコンサートについては11月9日(日)の午後を希望する。

【決定事項】

 - ・承認する。
- (6) 調理器材購入について
 - 教会ホールの厨房にある炊飯器が壊れたため新たに購入したい。
 - 港南教会で使わないということで炊飯器を1台預かっている。もう1台あるので山手で使うなら譲り受ける。

【決定事項】

 - ・港南教会より譲り受けることとする。
- (7) 東京フランス語カトリック会について

- 東京にあるフランス語のグループから5月31日にレコレクション（黙想）を山手教会で行いたいとのことで依頼があった。朝9時半からミサを行い、教会施設を午後5時まで使いたい。参加者は9人である。

【決定事項】

- ・承認する。
- (8) シルバーケアについて
- 教会の活動のひとつということで組織図のどこかに入れてほしい。
 - 活動内容から福祉委員会が適切であると思うが、福祉委員会の中で話し合いを行う。

【決定事項】

- ・検討を継続とする。
- (9) 司祭・信徒館「松・竹」プロジェクター設置について
- 教学をはじめプロジェクターの使用希望があり、気軽に使えるように常設としたい。

【決定事項】

- ・事業者より見積を取得し購入を検討する。
- (10) 巡礼記念のグッズについて
- 巡礼記念のグッズとしてクリアファイルを150枚、アクリルスタンドを10個制作した。約1週間でクリアファイルは完売となった。

【決定事項】

- ・クリアファイルについては増刷する。

2 今後の活動、報告事項

【枇杷助祭の司祭叙階式について】

- 保土ヶ谷教会からの依頼により教会学校、聖歌隊が協力を行う予定。

【第3地区全体会について】

- 次回の全体会は、3月30日（日）午後3時から保土ヶ谷教会で行われる。

【ロザリオ会より】

- 5月20日（火）に巡礼として東京の神田教会や関口（東京カテドラル）教会、麴町（聖イグナチオ）教会を訪問予定。
- 4月4日（金）のロザリオ会主催ミサは、ダリル師に司式していただく。
- 3月29日（土）午後2時から黙想会と赦しの秘跡。

【福祉委員会より】

- 福祉のバザーを6月と11月に開催する予定。
- ミニカフェは毎月第3日曜日に開催。ただし、4月は休み。8月は寿町のカレーの炊き出しが近いので休みとする。
- 福祉ニュースの内容を簡略化し、福祉に関わる団体の紹介など発行の機会を増やす予定。

【横浜みこころ幼稚園より】

- 10月26日（日）バザーを開催。今回は10時30分から午後1時30分までの3時間とする予定。

【四旬節準備、司祭叙階式について】

- 今年は受洗される方が非常に多い。
- 復活徹夜祭、復活祭9時30分（英語）、11時30分（日本語）の各ミサは教会ホールでのパブリックビューイングを用意する。

【ダリル師について】

- ダリル師が山手教会を離任し5月に帰国される。
- 5月4日（日）に送別会を開催。ポットラックパーティの形式で行う。日本人の参加も歓迎する。

【教学より】

- 「受洗者のフォローアップの会」を立ち上げ。
- 受洗された後、教会から離れてしまうことがないようにフォローアップを行う。

3 主任司祭から

- 第2次人事異動が発表された。内藤師は二俣川の小区管理者となる。
- ダリル師が離任されて10月までの間、山手の司祭は鈴木師のみとなる。
- 3月9日（日）は教区の合同志願式。この日の11時30分のミサでは派遣のセレモニーを行う。
- 3月16日（日）は「子どもとともに、ささげるミサ」、教会学校卒業式。
- 3月20日（木・祝）は枇杷助祭の司祭叙階式。
- 3月30日（日）11時30分のミサで共同回心式。内藤師にも協力を依頼。第3地区全体会がある。

4 次回教会委員会

2025年4月6日（日）午後1時～3時終了予定。

（総務担当 宮 裕一）

2025年4月・5月主日ミサの聖歌および奉仕者予定表

	主 日	聖 歌			聖歌隊	時 間	奉 仕 者			備考	
		答唱詩編	アレルヤ唱	ミサ曲			オルガン	先 唱	聖書朗読		
4月13日	受難の主日 (枝の主日)	典176 ①②③④	詠唱 典317	ミサ曲A (典608,9)		前日pm5:00	村 松	齋藤(悠)	第一朗読 小佐井 朗読C 工藤(元)	第二朗読 福田(直) 朗読A 柳川(晋)	
						7:30	中 川	二 宮	第一朗読 東海林(珠) 朗読C 石川(喜)	第二朗読 時久(毅) 朗読A 田口(利)	
						* 11:30	佐 藤	遠 藤	第一朗読 石田(明) 朗読C 池田(恵)	第二朗読 中野(説) 朗読A 紀國谷(由)	
17日	聖木曜日 (主の晩さん)	典97 ①②③	詠唱 典262 主の晩餐	ミサ曲A 典605~9	*	pm7:00	中 川	末 澤	木原(真)	ICC	
18日	聖金曜日 (主の受難)	典145 ①②③④	詠唱 典317		*	pm7:00	手 塚	村田(義)	第一朗読 室崎(理) 福音C 阿部(眞)	第二朗読 ICC 福音A 川田(耕)	
19日	復活徹夜祭	典79 ①②③ 典7 ①③	典12①②③	ミサ曲A (典607~9)	*	pm7:00	米 沢	齋藤(悠)	第一朗読 ICC 第三朗読 古谷(浩)	第五朗読 ICC 第七朗読 末澤(二) 使途書 古谷(信)	
20日	復活の主日 祭	典87 ①②③	典351(続唱) 典266または 264	ミサ曲A 典605~9		7:30	渡 邊	末 澤	石川(喜)	工藤(元)	
						* 11:30	中 川	小 山	中川(由)	佐伯(奈)	
27日	復活節第2主日	典87 ①②③	典351(続唱) 典264 第2主日	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	忠 海	宮(裕)	工藤(元)	島田(節)	
						7:30	小 嶋	亀 井	古谷(浩)	藤本(茂)	
						11:30	太 田	小 倉	小松(美)	荻原(恵)	
5月4日	復活節第3主日	典65 ①③④	典264 第3主日C	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	渡 邊	竹之内	新井田	阿部(眞)	
						7:30	太 田	石 賀	竹内(千)	武田(登)	
						* 11:30	手 塚	山本(紀)	後藤(由)	紀國谷(由)	
11日	復活節第4主日	典172 ①②④	典264 第4主日	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	村 松	齋藤(悠)	小佐井	福田(直)	
						7:30	小 嶋	二 宮	田口(利)	神近(千)	
						* 11:30	佐 藤	遠 藤	室崎(理)	木原(真)	
18日	復活節第5主日	典18 ④⑤⑥	典264 第5主日C	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	手 塚	工藤(元)	飯塚(秀)	志村(光)	
						7:30	渡 邊	末 澤	細谷(雄)	間部(侑)	
						* 11:30	中 川	小 山	池田(恵)	上瀧(聡)	
25日	復活節第6主日	典55 ①②③	典264 第6主日	ミサ曲A 典605~9		前日pm5:00	忠 海	宮(裕)	工藤(元)	島田(節)	
						7:30	手 東	亀 井	東海林(正)	津久井(暁)	
						11:30	太 田	子どもとともに、ささげるミサ			

編 集 後 記

JR石川町駅から教会へ行く途中、石段の片隅に風で吹き寄せられてたまった僅かな土に、目の覚めるような黄色いタンポポの花が2輪も咲いていました。昨年、どこか他の場所で咲いていた花が終了して白い綿毛となり、その綿毛が強い春風に乗って空高く舞い上がり、綿毛に吊り下げられていた種がこの場所に落ちて根を張り、芽を出し、長い冬の厳しい寒さを乗り越えて見事に花を咲かせたのです。過酷な環境に負けずに美しい花を咲かせたタンポポの生命力に、大きな感動をいただきました。(土方芳人)

☆表紙のカット(山手教会)は、濱尾文郎枢機卿様の「えはがき」です。